

名家連ニュース

令和6年12月1日(日)

発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 1018 号

◆◇ 2024年「晴れときどき虹」報告 ◇◇

2024年「晴れときどき虹」が、11月16日(土)吹上ホールで開催されました。参加者は167名でした。オープニングは、アルパフェリスによるミニコンサートでした。主催者を代表して、名家連の池山豊子会長と名古屋市健康福祉局の中島亮一課長が挨拶されました。長野敏宏先生(御荘診療所、精神科医)が「町から精神科病院をなくしたら患者はどうなった？」—愛媛県愛南町での実践を踏まえて—と題して講演されました。



精神科病院をなくしたわけではなく、病棟を閉じただけです。皆さんの人生が地域生活の中で連続して行われる中で治療ができるといいなというふうに心底思っ、地域で何とか生き続けていただけるような仕組みを作っていくうちに、病床がどんどんいなくなって、ここまできたら最後、なくしてもいいかなというところまできたということです。「トリエステと愛南町は世界で最高の場所」と言われるようになりました。

大都市の名古屋の家族の皆さんにお話しするということで、30年を振り返って、一番何が大事だったかなって考えた結果、①ご本人との関係性の根本的改善。「だまさない」「ごまかさない」「無理強いしない」②「親亡き後」議論が不要なケア体制。ご家族はご家族の人生を歩んで欲しい。親亡き後の議論をすると、間違いなくご本人の希望とは遠ざかっていきます。③「排除しない」地域社会づくり。の3つに絞りました。

人口2万人の愛南町は、誘致した企業がすぐに撤退し、町存続の危機を迎えました。産業を作らなきゃと思い、「NPO法人ハート in ハートなんぐん市場」をたちあげました。設立趣旨書の主語は「様々な立場の住民」にしました。障害者という総称をやめようと思いました。

地域には高齢者のことだったり障害のこと子供のこといろんなことを考えてる人たちがいっぱいいます。一つのテーマを持ったネットワークを広げるのではなくて、緩やかにそのネットワーク同士を重ねていくようなイメージで繋いでいきました。精神障害を考える方々を増やしたいときに、違うネットワークに飛び込んでいってみるっていうのはすごく有効な方法です。

私が愛南町で本当に良かったなというのは外の面を見させてもらったことです。アメリカのロングビーチでは、ご本人が暮らす地域に全部のサービスがちゃんとあるかどうかすごく大事ということに気づきました。ご本人が生きるためのものが、ご自身が住むところに一通り揃うことがすごく大事です。レスパイト(介護や育児など、普段誰かのケアを行っている人が休息できるよう支援する取り組み)は大事です。休める場所をいっぱい作りました。イタリアは24時間体制を止めました。24時間体制を支える人っていうのは簡単には作れません。時間をかけて作らなきゃいけないと思います。

「精神障害にも対応した地域包括支援」という厚労省の政策作りに参加しました。なぜ「にも」と入れたか。高齢者の地域包括ケア、精神の地域包括ケア、また別に作りそうな雰囲気になりそうだったのでそこに釘を刺しました。町に地域包括ケアシステムは一つです。皆さん、一生懸命やって、「にも」を取りましょう。それが「にも」って発言した者の真意です。

長野先生による30年にわたる「精神科医療のモデルチェンジ」には、名古屋市でも展開可能な項目が沢山ありました。ある支援者のアンケートに、「職場で活かすことができる言葉をたくさんいただきました。辞めたいと思っていましたがもう少し頑張れそうです。」とありました。人の心を動かす素晴らしい講演でした。(文責 広瀬)